



資料4

「かながわ消費者施策推進指針」の改定 に向けた課題整理

②事業評価と指針の構成

過去3年間の事業の評価

- 資料4別紙に令和2年度から令和4年度までの事業計画と実績を記載した。
- 加えて、アウトカム（事業の効果を表す数値）指標や事業見直し時に用いたデータ等も記載した。
- 事業評価の観点を交えて、指針の体系・構成上の課題を整理する。

現行の指針の問題点

- 事業を評価する観点で見ると、個別のアウトカム指標を設定できない事業が散見される。

例) 次の場合では、取扱件数等で事業を評価することが難しい。

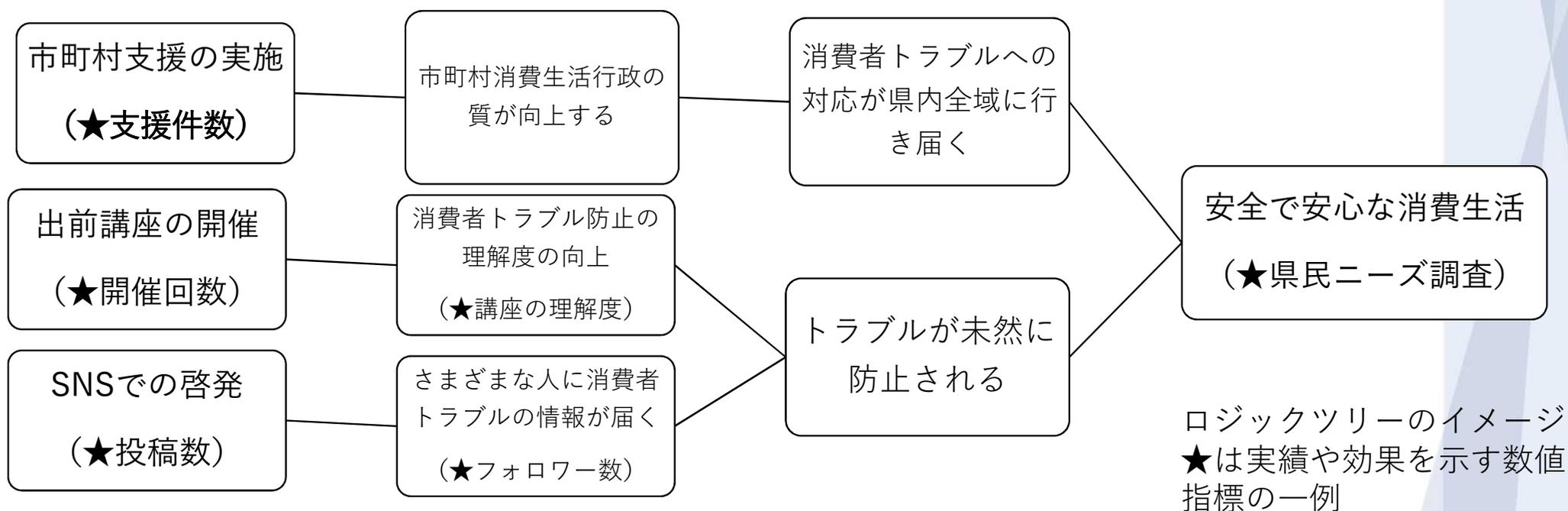
- 相談など社会の状況によって取扱件数が大きく増減する場合

- これらを踏まえて、改定後の指針では、事業の構成を検討する必要がある。

ロジックモデル(ロジックツリー)の活用

- 事業を評価する視点で施策を検討する際、「ロジックモデル」を用いる手法がある。（県の総合計画等でも採用されている。）
- ロジックモデルとは、
 - ・資源の投入や事業活動
 - ・事業活動によって提供される財・サービス（アウトプット）
 - ・直接的、中長期的に発生する成果（アウトカム）の間には明示的に示し得る因果関係があるはずとして、これらを流れ図や表の形で表したもののこと。
- ロジックモデルを用いれば、事業と効果の関係性の可視化も可能となる。

ロジックツリーを用いた事業整理のイメージ



■ロジックモデルを樹形図として表したロジックツリーのイメージを示した。

■事業を行ったときに波及していく効果の関係をまとめ、整理する。

ロジックツリーを用いた体系(基本方向)の検討

- 施策が意図している効果や手段の関係性を可視化し、施策の論理的構造を明確にすることができる。
- 直接的にはアウトカム指標を設定できない事業でも、波及した先で事業の影響や効果を測定できないか、検討できる可能性もある。
- 策定したロジックツリーを基軸に、指針の体系・構成を検討し、骨子案として次回審議会で提示する。(予定)

